

各部会における今年度の取組みについて（中間報告）

令和 4 年 1 0 月 1 4 日

刈谷市障害者自立支援協議会 各部会スケジュール（令和４年度）

	地域生活支援拠点等検討部会	就労支援部会	相談支援部会	子ども部会
1	<第20回> R4. 6. 24(金)13:30～ 市役所 4 階 402会議室 【議題】 1. 令和４年度刈谷市障害者自立支援協議会及び各部会検討事項 2. 受入施設の空き情報の共有について 3. グループホームの体験利用の運営及び広報について 4. 専門的研修の受講促進支援について 5. 運営評価について	<第41回> R4. 6. 7(火)15:00～ 市役所 7 階 702会議室 【議題】 1. 第４３回刈谷市障害者自立支援協議会就労支援部会に関する報告について 2. 障害者雇用セミナーについて 3. 就労支援に関する課題解決に向けた取り組みについて	<第60回> R4. 5. 19(木)14:00～ 市役所 5 階 503会議室 【議題】 1. 第４３回刈谷市障害者自立支援協議会相談支援部会に関する報告について 2. 令和３年度相談支援部会で挙げられた地域課題について 3. 市内相談支援事業所における事業報告 4. 地域生活支援拠点事業の事前登録について	<第21回> R4. 9. 28(水)13:30～ 市役所 7 階 701会議室 【議題】 1. 令和４年度刈谷市障害者自立支援協議会及び各部会検討事項 2. 令和４年度こども部会における検討事項
2	<第21回> 予定 R4. 9. 30(金)13:30～ 市役所 3 階 301会議室 1. 事前登録の現状について 2. 受入施設の空き情報の共有について 3. グループホームの体験利用の運営及び広報について 4. 専門的研修の受講促進支援について 5. 運営評価について	<第42回> 予定 R4. 10. 11(火)15:00～ 市役所 7 階 702会議室	<第61回> R4. 9. 22(木)14:00～ 市役所 3 階 301会議室 【議題】 1. 相談支援部会に関わる各連絡会について 2. 相談支援事業所における事業報告	<第22回> 予定 R4. 11. 9(水)13:30～ 市役所 5 階 502会議室
3	<第22回> 予定 R4. 12. 23(木)13:30～ 市役所 5 階 502会議室	<第43回> 予定 R5. 1. 31(火)15:00～ 市役所 7 階 702会議室	<第62回> 予定 R4. 12. 15(木)14:00～ 市役所 5 階 502会議室	<第23回> 予定 R5. 2. 14(木)13:30～ 市役所 2 階 201会議室
4	<第23回> 予定 R5. 2. 24(金)13:30～ 市役所 5 階 502会議室		<第63回> 予定 R5. 3. 9(木)14:00～ 市役所 3 階 301会議室	

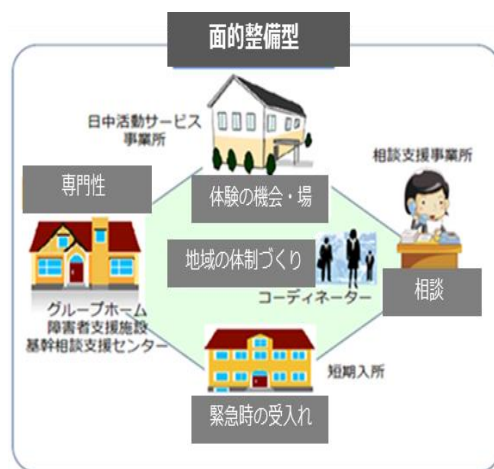
 は今回報告する部会です。

令和4年度「地域生活支援拠点等検討部会」中間報告について

1 検討事項

障害者の高齢化、重度化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能を整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制の構築として地域生活支援拠点等（以下「拠点」という。）を令和2年度末までに面的整備を行い、令和3年度から運用を開始しました。

今年度の当部会では引き続き、拠点の充実のため整備すべき機能の検討を進めています。



2 部会員

所 属 機 関	氏 名
医療法人 成精会	垣田 泰宏（部会長）
社会福祉法人 観寿々会	橋口 磨理子
刈谷市障害者支援センター	相澤 道子
西三河南部西地域アドバイザー	大南 友幸
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	安藤 円
刈谷市社会福祉協議会	梅本 秀之
社会福祉法人 ひかりの家	武田 智枝
株式会社 悠	外山 浩章
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	藤井 孝
刈谷手をつなぐ育成会	幅上 三津子
刈谷地域精神障害者家族会	長谷川 宏

3 検討経過

昨年度から運営を開始した「相談」、「緊急時の受入れ」機能の現状確認に加え、「体験の機会・場」、「専門的人材の確保・養成」機能の充実に向け、昨年度2月の第19回部会で示したスケジュールを基に検討を行いました。第20回部会では、グループホームの体験利用について受け入れ条件や課題の抽出、専門的研修の受講促進支援について検討を行いました。第21回部会では、グループホームの体験利用条件の整理、専門的研修の受講促進支援の方針決定、拠点機能の運営評価方法の決定を行いました。

回数	開催日	内容
第 20 回部会	6 月 24 日	・受入施設の空き情報の共有について ・グループホームの体験利用の運営及び広報について ・専門的研修の受講促進支援について ・運営評価について
第 21 回部会	9 月 30 日	・事前登録の現状について ・受入施設の空き情報の共有について ・グループホームの体験利用の運営及び広報について ・専門的研修の受講促進支援について ・運営評価の実施に向けて

4 検討結果

(1) 事前登録の現状と見直し

事前登録の窓口となる各相談支援事業所に対し、改めて事前登録制度の説明会を行いました。現時点では事前登録の実績はありませんが、各相談支援事業所において、勧奨すべき対象者について整理しており、勧奨することを検討しているケースもあります。

(2) 拠点の充実のため新たに整備すべき機能について

今年度から整備を進めている内容についての進捗は、ア～エのとおりです。

ア 受入施設の空き情報共有について

コーディネーター、受入施設（短期入所事業所）及び市がアプリを活用して情報を共有するための調整を実施。今後、試験運用に向け運用ルールを作成します。

イ グループホームの体験利用の運営及び広報の検討について

受入形態の見直しを行い、受入条件について整理を行いました。今後、部会における議論を踏まえ、受入条件の調整を図ります。また、広報の方法・ツールについて検討していきます。

ウ 専門的研修の受講促進支援について

市内事業所の令和3年度研修受講実績等の調査結果を提示するとともに、専門的研修の受講促進支援策について検討しました。その結果、市（自立支援協議会）が主催する研修を実施すべきという方針にまとまりました。

エ 運営評価の実施に向けて

愛知県より示された「運用状況の検証・検討のための手引き」を基に評価方法及び評価様式について検討しました。今後、評価様式に沿って令和3年度の運営評価を行います。

5 障害者自立支援協議会への依頼事項

4（2）ウを受けて、市（自立支援協議会）による研修の実施に向けて、新たに研修実施についての専門部会を設置し、検討を進めるべきと考えます。そこで、次年度の新たな部会の設置の可否について検討をお願いします。

6 今後の検討事項

引き続き「相談」、「緊急時の受入れ」機能の現状確認に加え、「体験の機会・場」、「専門的人材の確保・養成」機能の充実に向け検討を行います。

回	開催予定日	内容
第 22 回部会	12 月 23 日	・受入施設の空き情報共有の本格運用に向けた確認・検証 ・グループホームの体験利用の運営方法及び広報方法の調整・検討
第 23 回部会	2 月 24 日	・専門的研修の受講促進支援に向けた制度の検討 ・運営評価の方法の確立・評価の実施 ・整備すべき機能について次年度に向けた検討

令和4年度「就労支援部会」中間報告について

1 開催日時等

第41回就労支援部会

令和4年6月7日（火）15時00分～16時30分 702会議室

2 部会員名簿

団体等名	氏 名
特定非営利活動法人 パンドラの会	坂口 伊久磨（部会長）
特定非営利活動法人 くるくる	手嶋 雅美
パッソ刈谷校	伊藤 友美
刈谷市障害者支援センター	梶 佳稔
西三河南部西障害者就業・生活支援センター	加藤 正昭
刈谷商工会議所	岡田 行永
刈谷公共職業安定所	志水 みゆき
愛知県立安城特別支援学校	加藤 昌子
刈谷市立刈谷特別支援学校	佐伯 忍
商工業振興課	平出 達也

3 報告事項

（1）第43回刈谷市障害者自立支援協議会就労支援部会に関する報告について

第43回刈谷市障害者自立支援協議会の場で就労支援部会の取組み等について報告した内容について部会員間で共有した。

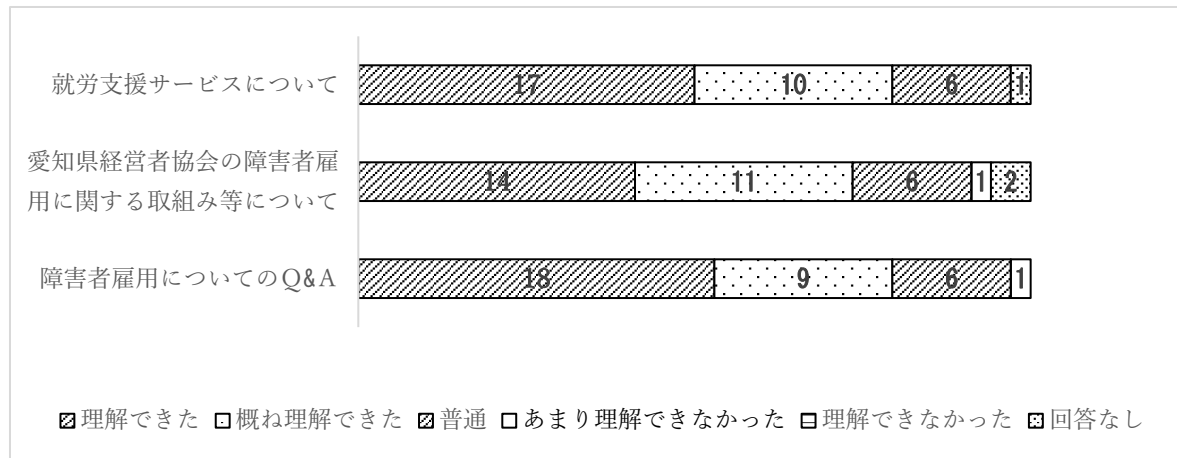
（2）障害者雇用セミナーについて

ア 障害者雇用セミナー参加者アンケートの結果

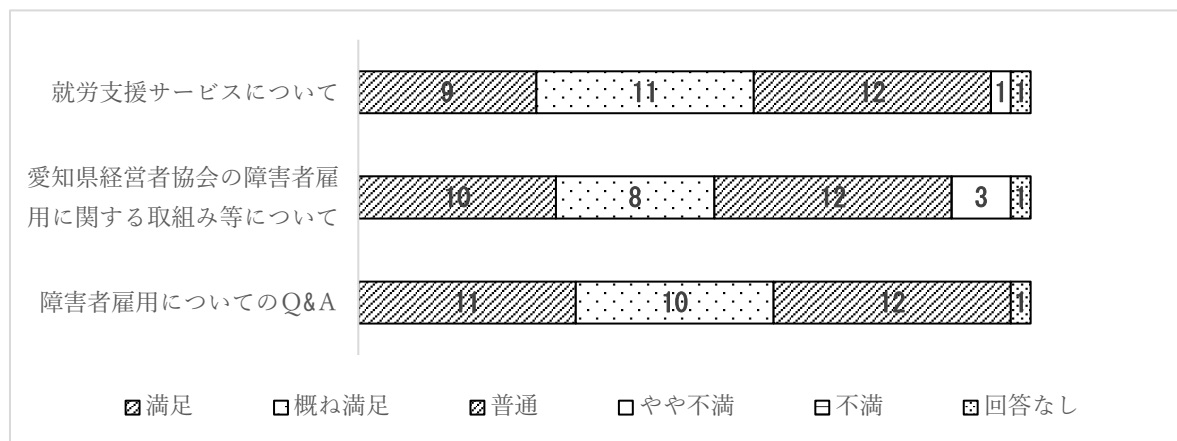
令和4年3月に開催した障害者雇用セミナーの参加者アンケートの結果について、部会員間で情報を共有した。

参加者アンケートの結果（回収数 34 通）

< 理解度 >



< 満足度 >



< 参加者の主な意見 >

- ・機会があれば、また参加したい。
- ・（新型コロナウイルス感染拡大の影響で、）参加企業同士のグループトークが開催できなかったのは残念。
- ・実際に障害者を雇用した企業の事例を聞きたい。
- ・障害者雇用に関する支援制度を知ることができてよかった。
- ・精神・発達障害に特化した内容が聞けるとよかった。

イ 令和4年度の障害者雇用セミナーについて

今年度の障害者雇用セミナーを開催するかどうかについて、意見交換を行っ

た結果、「雇用セミナーは開催する意義のあるものであり、開催した方がよい」、「参加者アンケートの結果を見ても満足度が高く、開催できるとよい」等の意見があり、開催する方針を決定した。セミナーの具体的な内容等、詳細については、ワーキンググループを設置し、そこで検討を進めることとなった。

(3) 就労支援に関する課題解決に向けた取組みについて

昨年度までの部会で抽出された、「就労継続支援A型・B型からの一般就労促進や就労定着支援について」、「学校卒業後の就労定着支援について」、「ひきこもり含む若者の就労支援について」、「就労だけでなく、生活面でも支援できる相談支援体制の構築に向けた検討について」、「支援者のサポート力向上について（人材育成）」の5つの課題のうち、「就労継続支援A型・B型からの一般就労促進や就労定着支援について」、「学校卒業後の就労定着支援について」、「ひきこもり含む若者の就労支援について」を中心にして検討することを確認し、各課題について、意見交換を行った。

ア 就労継続支援A型・B型からの一般就労促進や就労定着支援について

<主な意見>

- ・ 就労継続支援A型・B型事業所職員の一般就労促進の意識付けのため、ハローワーク刈谷を講師として、就職活動に関する基本的な知識を学ぶことができる勉強会を開催できるとよいのではないかな。
- ・ 就労継続支援A型・B型事業所職員の一般就労に関する考え方等の意見が聞けるとよい。
- ・ 就労継続支援A型・B型事業所職員の意見を聞くため、部会員が就労支援連絡会に参加するのはどうか。

イ 学校卒業後の就労定着支援について

<主な意見>

- ・ 学校としては卒業生のサポートまで手が回らないことがあり、就労定着支援が増えると助かる。
- ・ 学校卒業後、就労系サービスを利用することなく一般就労した人に対するサポートが難しいので、就労継続支援A型・B型から一般就労する流れが進ん

でいくとよい。

ウ ひきこもり含む若者の就労支援について

<主な意見>

- ・子ども・若者総合相談を担当している職員に、相談件数の現状や相談内容等についての話をしてもらうのはどうか。

4 今後の取組み及び検討事項等

(1) 令和4年度の障害者雇用セミナーについて

ワーキンググループでの検討事項に基づいて、セミナーの内容を決定し、開催する。

(2) 就労支援に関する課題解決に向けた取組みについて

各課題について、部会員から挙げられた意見を基にして、具体的な取組みについて検討を行う。

「相談支援部会」中間報告について

1 開催日時等

第60回相談支援部会

令和4年 5月19日（木） 刈谷市役所5階 503会議室

第61回相談支援部会

令和4年 9月22日（木） 刈谷市役所3階 301会議室

2 部会員名簿

団体等名	氏名
刈谷市障害者支援センター	伊澤 紀明（部会長）
社会福祉法人 ひかりの家	山田 哲哉
社会福祉法人 観寿々会	酒井 克朗
刈谷市社会福祉協議会	井上 真志
株式会社 悠	中村 美香、外山 浩章
株式会社 エイト	河野 尚子
西三河南部西地域アドバイザー	大南 友幸

3 報告事項

（1）相談支援部会における検討内容等

ア 刈谷市障害者自立支援協議会における相談支援部会の報告について

令和3年度における部会での検討事項とその結果及び今年度の自立支援協議会の体制について変更点を中心に刈谷市より報告を行った。

イ 市内相談支援事業所における事業報告について

各相談支援事業所における対応事例をそれぞれ報告、共有し対応策を検討した。事業所間で情報共有し、その対応について部会員で検討を行うことで対応能力の向上に努めた。

また、利用希望者からの障害福祉サービスの利用相談時の支給決定に関する疑問について議論した。具体的にはグループホームを体験利用する際の支給決定に関して、受給者証の記載内容の認識が事業所間で異なっていたため、市から改めて説明し共有を行った。

ウ 地域課題の検討について

令和3年度までに各部会や各連絡会であがった課題について、現状及び今後の対応策を整理し、引き続き解決に向けて取り組む事項について検討した。

社会資源の不足と充実した相談支援体制の実現について議論した。相談支援体制の充実については、相談事業所の人員不足や、相談支援業務のみを行うだけでは経営的に厳しいとの意見が事業所より寄せられた。相談支援体制の整備については、効果的な支援について引き続き検討する。

エ 地域生活支援拠点事業について

各相談支援事業所での事前登録の状況について情報共有を行った。それぞれの事業所が取り組んだ事例について報告し、市で必要な助言や考え方について説明を行った。事前登録の対象となるケースを明確にし、勉強会を開催するなど、引き続き事業の確立に向け協議する。

オ 地域生活支援連絡会における活動報告

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの協議の場」として、連絡会を令和4年7月1日（金）に開催した。令和3年度の活動状況を踏まえ、令和4年度の検討テーマとして、優先して取り組むべきものについて連絡会参加者で協議を行った。令和4年度は、昨年度に引き続き「ピアサポート」と「人材育成」にテーマを絞り、活動内容を検討することとなった。連絡会の下にワーキンググループを継続して組織し実際の活動を検討し、一部を実施している。

「ピアサポート」に関しては、昨年度より検討していた「支援者向けピアサポート研修」の企画及び実施を行った。講師及ピアサポーターによる講義を調整し、令和4年9月21日（水）に刈谷市役所にて研修を実施した。研修を通じて、課題と認識していた「支援者がピアサポートについて十分に理解する。支援者がピアサポートについて学び、当事者へ適切に説明できる水準の知識向上を図る」ことの改善に努めた。

「人材育成」に関しては、支援者が精神疾患についての理解を深めることで、支援力向上につなげる。また、精神疾患の理解を広めることで、精神疾患を持つ方への支援ができる人材を増やすことを目的に活動内容を検討している。ワーキン

グループメンバーの興味・関心のあるものから始めることを想定しており、具体的には、病院見学、事例検討、作業療法士等から話を聞く等が候補となっている。今後は候補として挙げられている活動を精査し、実施に向けた取り組みを進めていく。

4 総括及び検討課題

相談支援体制については、相談支援専門員の退職により相談業務が困難になった事業所があった。刈谷市の各事業所の現状を把握するとともに、近隣市町の状況も調査、参考とした上で、改善に向けた方策を検討していく。地域生活支援拠点については、運用方法の確立と課題発生時の対応を明確化する必要がある。地域生活支援連絡会については、引き続き取り組むテーマについて具体的な活動を推進していく。

「子ども部会」中間報告について

1 開催時期等

第21回子ども部会

令和4年9月28日（水） 刈谷市役所7階701会議室

2 部会員名簿

団体等名	氏名
子育て支援課	角岡 篤樹（部会長）
社会福祉法人 ひかりの家	野々山 貴
医療法人 成精会	佐々木 広香
刈谷特別支援学校PTA	小林 歩美
安城特別支援学校地区別懇談会刈谷交流会	西川 早苗
らっこちゃん親の会	宮田 志保子
刈谷児童相談センター	渡邊 一史
刈谷市立刈谷特別支援学校	岩本 詩野
愛知県立安城特別支援学校	加藤 昌子
学校教育課	屋敷 大喜
刈谷市社会福祉協議会	日沖 靖子

3 報告事項

（1）子ども部会における内容等

ア 刈谷市障害者自立支援協議会及び各部会検討事項

令和3年度における部会での検討事項とその結果及び今年度の自立支援協議会の体制について変更点を中心に刈谷市より報告した。

イ 子ども部会における検討事項について

昨年度、子ども部会において抽出された刈谷市における地域課題を参考に、地域課題に関する意見や新たな課題等について、部会員を2グループに分け意見交換を行った。

Aグループでは、「相談したい時の相談先がわからない」、「発達の遅れがある子に対してどのように支援方法の案内をしていくのか」といったこ

とが課題としてまとめられた。

Bグループでは、支援が必要な親子に対し親だけに偏らない情報発信の在り方や、昨今のコロナウイルス感染症状況下でセミナーやイベントの開催が思うように開催されない中、他の家族の養育状況を知る機会をどのように創出していくかが課題といった意見が寄せられた。

ウ その他

医療的ケア児の支援状況について、市の取り組みを紹介するとともに、刈谷市が所属する西三河南部における重症心身障害児支援拠点として今年度発足する東海市のにじいろの家について概要説明を行った。

4 総括及び検討課題

グループワークの内容を踏まえ、親子が共に参加できる支援の場をどのような形で実現するかを次回以降の部会で検討する。

Aグループの検討事項について、孤立している人がどこに相談をしたらよいかが分からないという意見があったため、年齢毎の問い合わせ先を整理したパンフレット、チラシを準備し、利用を促していくことを検討する。また、発達の遅れが認められる子の保護者においては、障害受容について理解が得られない恐れがあるため、例えば、当該児童の定期健診の際に適切なタイミングで必要な情報を案内していく。これらの取り組みについて、事務局で案を検討した上で、部会で実現に向けた検討を重ねていく。

Bグループの検討事項については、従来のセミナー開催といった方法も考えられるが、セミナーの開催が目的とならないよう、何かの催事と共同することや、従来の講義形式の発信手段が最適であるかも検討し、効率的な発信方法を模索するとともに、実施可能な具体的な取り組みについて部会で検討を図っていく。

また、昨年度からの地域課題として取り上げられた「保護者支援の充実」、「地域とのつながり」という2つのテーマに関する対応として、部会員が所属する組織・機関の事業内容及び抱える課題を順番に説明することにより、各関係機関同士の連携、理解を深めていく活動については継続実施していく。